ブロッコリー　３月の管理について

１　収穫

3月に入ってから急激に気温が上昇し、花蕾の生長が思ったより進むことがあります。　花蕾の様子に注意して適期収穫に努めましょう。

２　定植

３月上旬に露地（初夏どり）の定植ができます。

初夏どりは収穫期間が短い（３日程度）ので、収穫時の労働力に応じた栽培面積にとどめましょう。

３　根こぶ病対策

地温の上昇に伴い、春の栽培後期に発病しやすくなります。前作発生ほ場やアブラナ科作物連作ほ場は、定植前に対策を施しておきましょう。

収穫までの長期間、土壌ｐＨを矯正するために、カキ殻由来等の緩効性の石灰資材を利用しましょう。

４　春どり～初夏どりの病害防除

降雨が多い時、多湿条件の時は病害の発生を助長するので、予防に努めましょう。

夕方遅くの薬剤散布は、多湿条件を作る要因になるのでなるべく避けましょう

○苗立枯病（リゾクトニア菌によるもの）対策

降雨後の多湿状態で発生が急激に増加するので、ほ場の排水を良くしましょう。

薬剤防除として、育苗期後期にリゾレックス水和剤（５００倍希釈　土壌かん注処理）で予防しましょう。

○菌核病対策

定植後に活着したらすぐ、株元を重点に登録殺菌剤を散布しましょう。

（発病後の殺菌剤散布は防除効果が低いので予防散布しましょう。）

畑地は水田跡に比べて発生が多い傾向があります。

○黒すす病

定植３０日頃と出蕾期に登録殺菌剤を散布しましょう。（メジャーF、ホライズンDF、ファンタジスタ顆粒水和剤、パレード20F、シグナムWDG、アミスター20F等）

黒すす病は下葉から上葉、花蕾へと菌が広がります。定植３０日より前でも、昨秋多発生した圃場や、葉っぱに病斑が見える場合は予防的な防除をおすすめします。

○細菌による花蕾腐敗病対策（**黒すす病との併発に注意！**）

年明け～春に収穫する作型で発生が多く、着蕾期以降の降雨で発生が多くなります。薬剤防除は着蕾期のごく初期に銅剤（クプロシールド、ヨネポン、コサイド３０００、Ｚボルドー等）　を予防散布します。銅剤は薬液による花蕾の汚れがひどいので収穫日近くには散布しないように注意しましょう。

花蕾肥大期～収穫期には生物農薬（マスタピース等）が汚れが目立たないため、おすすめします。

写真１：苗立枯病発生ほ場

写真２：黒すす病の特徴的な病斑（これを見つけたら要注意！！）

5　虫害対策

○アブラムシ、コナガ、アオムシ等の発生が増えてくるので、登録殺虫剤で防除しましょう。

○ジアミド系殺虫剤（プレバソン、フェニックス、ベリマーク、ベネビア、ヨーバル等）に抵抗性のコナガが発生している地域があるので、薬剤選択に注意しましょう。

6　追　肥

○遅れて肥効が現れると、異常花蕾の原因となるので、出蕾以降の遅い時期に追肥はしないようにしましょう。

○肥料が茎葉に直接触れると葉焼け等の障害の原因になるので、茎葉に付かないように地面に散布しましょう。

○追肥後は肥効をすぐに効かせるためと、畝間除草をかねて中耕します。

（株が大きいときは、畝間に肥料を散布した後に土寄せしましょう）

○土壌が乾燥しているときは肥効を効かせるために様子を見て灌水しましょう。

7 灌水等水管理

○花蕾肥大期に乾燥が続くと死花（ブラウンビーズ）が発生するので、様子をみて灌水しましょう。

○大雨等の湿害で根傷みすると、ホウ素欠乏症等が発生するので、排水に努めましょう。

8 被覆資材べたがけ栽培の管理

保温被覆資材（アイホッカ、パオパオ、フレンド等）で、べたがけ被覆して保温することにより生育を促進できるでしょう。

■注意事項等

○風が吹くと不織布は留め具にひっかかって破れやすいので風の強いところでは太い留め具等でしっかり端をとめ、ブロッコリーの生長に応じてとめ直しましょう。

○薬剤散布には一度被覆をめくって散布し、再び被覆し直しましょう。

○被覆により湿度が高くなり、菌核病が発生しやすくなるので、必ず防除しましょう。また、保温によりアブラムシも増加しやすいので注意しましょう。

○着蕾したら、花蕾の高温障害等を避けるためにべたがけ被覆をはずしましょう。また、気象情報に注意し、高温になりそうなときは早めに被覆をはずしましょう。

写真３：べたがけの様子

写真４：花蕾腐敗病